



防災を学ぶ

まず強調しておくが、防災訓練は「防災」「訓練」である！先輩方の中には「学校に泊まるの？いいなあ〜♪」のように誤解している向きもあるようだが、「お泊まり」では断じてない！のでしっかり取り組むように。学級タイムで連絡したように、飲み物は各自で持参してほしいが、おやつその他一切禁止…というか、そういう状況を体験することが趣旨であるのだから、そのことを念頭にのいた行動・判断をしてほしい。

で、当然防災に関する学習もするわけで、わざわざ来ていただくのが、日比谷の卒業生も参加しているNPO法人「

」の皆さんである。ホームページもあり、トップページには印象的な写真も掲載されているので、興味がある諸君は見てみてほしい。

第一部では、実際に被災地ボランティアに参加された「」の皆さんによる体験報告会。質疑応答などがあるかも知れないので、積極的に参加しよう。

そして、夕食後の第二部では、各クラスに1名ずつ「」の皆さんがいらしてくれて、その方のアドバイスを頂きながら、「被災地マップ」の作成を行うことになっている。15Rが担当するのは、宮城県七ヶ浜町である。

- ・被害状況（死者、行方不明者、全壊半壊戸数、重傷・軽傷者数など）
- ・復興状況（数値データなど）
- ・観光地、特産品などの第3次産業の様子
- ・その他の産業の状況

などを、模造紙にまとめることになるので、事前に（つまり「今日」のうちに）、ネットで検索したりして、必要な資料（地図・写真・統計・グラフなど）があったら、家で打ち出して持参しよう。

ただし、とりあえず資料を持ち寄るとなると、同じテーマが重なったりしてしまうこともあるので、できれば模造紙にまとめてみたいテーマについて、各班ごとに今日のうちに相談して決めておくことよいだろう（例：「被災前と被災後の土地利用の変化」「被害が大きかった土地の特徴とは？」「どんなボランティア活動が為され、有効だったのか？」「現在の復興状況は？」など）。

事前の準備がしっかりできていれば、作業もうまく進行するだろうし、見栄えの良い作品に仕上がるに違いない。出来る範囲でしっかり準備しておこう。（ハサミやサインペン、ノリなども持参することになっているので、その割り振りもしておくこと）

<被災地マップ作成班メンバー>

- (1)
- (2)
- (3)
- (4)
- (5)
- (6)

では、防災体験活動に Let's GO!